

誤

15) ディスポーザブルウェットタオルとタオルによる清拭の効果 —皮膚常在細菌，角層水分量等の比較から—

○松本智晴<sup>1</sup>，有松 操<sup>2</sup>，古村沙織<sup>3</sup>，南家貴美代<sup>1</sup>，福山美季<sup>1</sup>，河野宏明<sup>1</sup>，前田ひとみ<sup>1</sup>  
<sup>1</sup>熊本大学大学院生命科学研究部看護学講座，<sup>2</sup>鹿児島純心女子大学看護栄養学部，<sup>3</sup>熊本大学大学院保健学教育部博士前期課程看護学分野

#### 【目的】

本研究は、ディスポーザブルウェットタオルによる部分清拭（以下ディスポ清拭）とタオルによる部分清拭（以下タオル清拭）による皮膚常在細菌の変化、角層水分量と経皮水分蒸散量の推移、リラクゼーション効果について明らかにする。

#### 【方法】

対象は65歳以上の健康な女性26名とし、対象者1人にディスポ清拭とタオル清拭を3日以上あけてランダムに実施した。調査は清拭前後の皮膚常在細菌、清拭前・直後、10分・20分・30分・60分後の角層水分量と経皮水分蒸散量を測定した。測定器機はCorneometer-CM825を使用した。リラクゼーション効果については、POMS 2日本語版検査用紙成人用短縮版（以下POMS 2）とタオル素材の質問紙で評価した。ディスポタオルは抗菌性と保湿性を持つ10枚パックのものを電子レンジで加熱し使用した。タオルは綿100%の新しいものを滅菌処理し、清拭の直前に滅菌蒸留水をタオルに散布し電子レンジで加熱した。皮膚常在細菌の培養はSCD 寒天培地及び黄色ブドウ球菌を選択的に分離する卵黄加マンニット食塩寒天培地を使用し、35℃で48時間培養した後、発育した細菌コロニーをカウントした。研究遂行にあたっては、所属機関の研究倫理委員会の承認を受けた（承認番号：先進第2188号）。

#### 【結果】

ディスポ清拭とタオル清拭の皮膚常在細菌はどちらも有意に減少した（ $P < .01$ ）。しかし、黄色ブドウ球菌についてはディスポ清拭のみが有意に減少した（ $P < .05$ ）。清拭後の角層水分量は上肢、下肢全てにおいてディスポ清拭が高く、上肢は直後と30分後、下肢は直後、10分後、20分後に統計的有意差を認めた（ $P < .05$ ）。経皮水分蒸散量は両群ともに統計的有意差は認められなかった。POMS 2の比較では、ディスポ清拭はTMD が清拭前より清拭後が有意に低下した（ $P < .05$ ）。タオル清拭は「疲労－無気力」と「緊張－不安」が清拭前より清拭後が有意に低下し、「友好」は清拭後が有意に高かった（ $P < .05$ ）。タオル素材の評価は、柔らかさおよび肌ざわり、拭き心地、フィット感についてディスポ清拭の方が有意に高かった（ $P < .01$ ）。

#### 【考察】

2006年、日本では清拭に使用するタオルを含むリネンが原因と考えられるBacillus cereusによるアウトブレイクが報告された。ディスポ清拭は、黄色ブドウ球菌を有意に減少させ、清拭後の角層水分量の維持に有効であるとともに、タオル清拭と同様にリラクゼーション効果も得られた。日々の清拭に抗菌性と保湿性を持つディスポタオルを使用することは、安全性や感染防止の点からも有効であることが示唆された。

正

15) ディスポーザブルウェットタオルとタオルによる清拭の効果 —皮膚常在細菌，角層水分量等の比較から—

○松本智晴<sup>1</sup>，有松 操<sup>2</sup>，古村沙織<sup>3</sup>，南家貴美代<sup>1</sup>，福山美季<sup>1</sup>，前田ひとみ<sup>1</sup>  
<sup>1</sup>熊本大学大学院生命科学研究部看護学講座，<sup>2</sup>鹿児島純心女子大学看護栄養学部，<sup>3</sup>熊本大学大学院保健学教育部博士前期課程看護学分野

#### 【目的】

本研究は、ディスポーザブルウェットタオルによる部分清拭（以下ディスポ清拭）とタオルによる部分清拭（以下タオル清拭）による皮膚常在細菌の変化、角層水分量と経皮水分蒸散量の推移、リラクゼーション効果について明らかにする。

#### 【方法】

対象は65歳以上の健康な女性26名とし、対象者1人にディスポ清拭とタオル清拭を3日以上あけてランダムに実施した。調査は清拭前後の皮膚常在細菌、清拭前・直後、10分・20分・30分・60分後の角層水分量と経皮水分蒸散量を測定した。測定器機はCorneometer-CM825を使用した。リラクゼーション効果については、POMS 2日本語版検査用紙成人用短縮版（以下POMS 2）とタオル素材の質問紙で評価した。ディスポタオルは抗菌性と保湿性を持つ10枚パックのものを電子レンジで加熱し使用した。タオルは綿100%の新しいものを滅菌処理し、清拭の直前に滅菌蒸留水をタオルに散布し電子レンジで加熱した。皮膚常在細菌の培養はSCD 寒天培地及び黄色ブドウ球菌を選択的に分離する卵黄加マンニット食塩寒天培地を使用し、35℃で48時間培養した後、発育した細菌コロニーをカウントした。研究遂行にあたっては、所属機関の研究倫理委員会の承認を受けた（承認番号：先進第2188号）。

#### 【結果】

ディスポ清拭とタオル清拭の皮膚常在細菌はどちらも有意に減少した（ $P < .01$ ）。しかし、黄色ブドウ球菌についてはディスポ清拭のみが有意に減少した（ $P < .05$ ）。清拭後の角層水分量は上肢、下肢全てにおいてディスポ清拭が高く、上肢は直後と30分後、下肢は直後、10分後、20分後に統計的有意差を認めた（ $P < .05$ ）。経皮水分蒸散量は両群ともに統計的有意差は認められなかった。POMS 2の比較では、ディスポ清拭はTMD が清拭前より清拭後が有意に低下した（ $P < .05$ ）。タオル清拭は「疲労－無気力」と「緊張－不安」が清拭前より清拭後が有意に低下し、「友好」は清拭後が有意に高かった（ $P < .05$ ）。タオル素材の評価は、柔らかさおよび肌ざわり、拭き心地、フィット感についてディスポ清拭の方が有意に高かった（ $P < .01$ ）。

#### 【考察】

2006年、日本では清拭に使用するタオルを含むリネンが原因と考えられるBacillus cereusによるアウトブレイクが報告された。ディスポ清拭は、黄色ブドウ球菌を有意に減少させ、清拭後の角層水分量の維持に有効であるとともに、タオル清拭と同様にリラクゼーション効果も得られた。日々の清拭に抗菌性と保湿性を持つディスポタオルを使用することは、安全性や感染防止の点からも有効であることが示唆された。